

きみまち阪

1881年、明治天皇が日本の東北地方を巡幸された。1868年に武家制度が終わり、日本は近代化に向けて順調に進んでいた。この巡幸は、天皇によって行われた最初の旅行であった。秋田の人々は天皇の訪問に備えて、天皇とその供奉員専用の新しい道路と宿泊施設を造った。きみまち阪に新しい道を造るため、巨岩は手掘りで砕かれ、藤琴川に橋が架けられた。

新しく造られた道路を旅している間、天皇は供奉員とともに立ち止まり、川の向こう側にある七座山を眺めた。大きな石は、天皇が腰を掛け皇后から送られた手紙を読んだと思われる場所を示している。皇后は天皇に会いたいという願望を書いた。手紙には次のような詩がしたためられていた。

大宮のうちに
ありても あつき日を
いかなる山か
君はこゆらむ

皇居の中にも暑い日々ですが、
どのような山をあなたは越えていらっしゃるのでしょうか。

明治天皇はこの丘で詩と手紙を受け取り、翌年の1882年にこの坂を「きみまち阪」つまり「君を恋しく思う坂」と命名するよう宮内庁に命じた。それ以来、二ツ井村は恋文のまちとして知られている。現在では、きみまち阪のいたるところに皇室の恋物語に関連するスポットがあり、恋人たちが一緒に時間を過ごす場所になっている。また、公園の郵便ポストから恋文を郵送することで恋愛成就が保証されるという現代の言い伝えもある。地元住民が公園を訪れ、春には桜、秋には紅葉を楽しむ。